

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

みやシニア
活動センター
通信 vol.53

(令和5年10月発行)

LRTに乗って行ってみよう！！

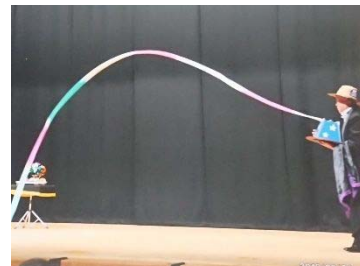
8月26日昼頃、市役所のそばに行く用事があった。「宇都宮駅周辺、特に東口、今日は混んでいるだろう。しかし、こっちは大丈夫だろう」と車を走らせると、宇商通りも西側の大曾通りも大混雑。もちろん、大通りも渋滞。さすがはLRT。宇都宮市内はどれもLRT 歓迎ムードだと思った。このところテレビでも新聞でも、全国版で宇都宮のLRTが紹介される。富山市に次いで全国2番目。新規敷設は初めてのケース。宇都宮市のLRT導入は成功するのか？10以上の自治体で導入の検討に入っているらしい。宇都宮のLRTは注目の的だ。3両編成の黄色とダークグレーの2トンカラーの車体は、何かしら魅力がある。宇都宮市のシンボルカラーの雷の光を表す黄色、そしてボディは黄色が引き立つダークグレー。半年前、車両基地に見学に行った時、その鮮やかさに見入ってしまった。以前、鹿児島市や京都市、高岡市、富山市、広島市で、いわゆる路面電車に乗ったことがある。それはそれで快適だった。渋滞がないから速い。住んでいる場所を考えると、用事がなければLRTに乗ることはないだろう、車もあるし。しかし、それを言うてはいけない。これまで直接行くことの少なかった清原、ゆいの杜、かしの森公園などLRTに乗って行ってみよう。10月までに3回乗る予定がある。まだ、乗客はしばらく多いだろう。全国から人が集まるだろう。宇都宮市がLRTをはずみにして、活性化して欲しい。今回ご紹介するのは、以下の3名です。



① 新井さん



② 荒井さん



③ 岡川さん

- ① 今泉町が大好き！住み続けて45年
- ② 傾聴ボランティアと荒井芳光さん
- ③ 私の趣味は3M+1(スリーエムプラス+1)

新井 勝二さん
荒井 芳光さん
岡川 光佑さん

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575
ホームページ：<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>

① 今泉町が大好き！住み続けて45年

新井 勝二さん

取材：肥後特派員



今回は、今泉町にお住まいの新井勝二(あらい かつじ)さんの登場です。新井さんは永年、自治会活動や老人会活動などに関わってこられました。今泉・錦地区で新井さんを知らない方はおられない。そんな感じで普段動き回っておられます。新井さんの活躍ぶりをお話しする前に、まずは、人となりを紹介します。新井さんは現在80歳。しかし、そうは見えすスマートです。5, 6歳はお若く見えます。新井さんに「出身は？」と何うと「御前山」と答えられます。「近くに流れる那珂川と那珂川大橋と相まって『関

東の嵐山』と呼ばれる美しい景観を作っている」御前山の表現です。茨城県常陸大宮市出身と言うよりは、やはり御前山への愛着がそう言わせるのかと思います。新井さんは大手建設会社に勤務されていました。東京勤務時に宇都宮転勤を命ぜられました。50年前です。宇都宮タワーや旧県立体育館、そして市立体育館などを建設した皆さんご存じの建設会社です。そして、現在の今泉町のお住まいに移られて45年となります。ここで、今の新井さんの活動の基盤が、そして今泉町の皆さんとの深い人間関係が築かれました。

お話を伺ったのは、4年ぶりに実施された今泉八坂神社天王祭の最終日の翌日です。15日から連日動き回り、飲み続け、お疲れだったと思います。この日も、近所の「MACサロン」に参加し、からだを動かしておられました。新井さんが自治会と関わられたのは、20年程前になります。仕事も一段落した頃、声がかかりました。人と話をしたり、人と関わることが大好きな新井さんです。今泉町八丁目西自治会の自治会長を、5年やられました。現在も区長として頑張っておられます。体育大会や文化祭、その他の取りまとめの中心となり活動をされています。今でも、近所の錦運動公園でソフトボール大会が開催されると必ず顔を出します。時にはピンチヒッターとして出場します。町内の仲間と和気あいあいと楽しんでおられます。

もう1つの大きなお役目は、錦地区の老人会である「錦地区ひばりクラブ」の会長としての立場です。62名の会員をまとめられています。このコロナ禍、いろいろな活動が制限されてきました。その中で児童見守り隊として錦小の児童の下校を見守り、お楽しみ会として落語会や合唱の集いを実施しています。今はコロナ感染も少し落ち着いてきて、活動の幅も広がってきました。今年は、日帰り旅行や一泊旅行も出来そうかなと。4年ぶりだそうですが、楽しみにされておられます。やはり目的は、会員相互の親睦と融和でしょうが、大洗方面となれば魚、それも新井さんの大好きなアンコウ鍋をお望みではないでしょうか。酒は言わずもがなです。また、宇都宮市老人クラブ連合会「おおいちょう宇都宮」でも広報部会委員として機関紙の編さんに頑張っておられます。

また、ボランティア活動としての「御用川河川愛護会」の会長としての役目もあります。河川の美的保全を目的として、10年前に市に登録されました。年に5~6回の除草、清掃作業を実施されています。新井さんの趣味は、野球観戦です。大谷翔平も気になりますがやはり、好きなのは高校野球です。今年もテレビの県予選中継にかじりついていました。もちろん、応援するのは野球部の後輩である母校茂木高校と、お孫さんが在籍していた作新学院です。今年は、甲子園出場がかなわず残念でした。

まだまだ元気な新井さんですが、健康に留意され、益々のご活躍を心から願っています。



(錦地区ひばりクラブの勉強会)

② 傾聴ボランティアと荒井芳光さん

荒井 芳光さん

取材：高山特派員



今回は、荒井芳光(あらい よしみつ)さんを紹介し
ます。年齢は77歳。清原台に在住で温厚なシルバ
ー世代です。いろいろな活動を通して活躍中です。

まず、荒井さんと言えば最初に、傾聴ボラン
ティアの活動が思い浮かびます。荒井さんが、傾聴ボラ
ンティアに関わるようになったきっかけから伺いま
した。荒井さんは、シルバー大学校中央校のOBで
す。シルバー大学校の授業の一環として、老人施設
へ訪問に行った時の事です。100歳のおばあちゃ
んが、いらっしゃいました。いつも身なりをきちん
とし、姿勢はよく、前向きな話をされていました。

そんな人生の大先輩に感銘して、関わるようになりまし
た。自分がお年寄りの話を聞いてあ
げて、それが役に立つのであればと思っていたのに、逆に自分が励まされてしまいました。
そして、この傾聴ボランティアの大切さ、そして、意義を知ることになりました。荒井さん
の思いはこれでとどまりません。この「傾聴」を、大きく幅広く活動していくためには、多
くの人の力が必要です。その考えから、多くの人を集め、計画的に定期的に活動できるよ
うにしようとして設立された「SDO サポート27」というグループに入会されました。そし
て、今、荒井さんはSDO事務局の一員としても活躍されています。SDOとはシルバー大
学OBの略です。この会は、傾聴ボランティアを主たる目的とし、高齢者の介護施設や個人
宅訪問をし、生活の意義を高め、地域社会のために奉仕する事を目的としています。事業内
容としては、① 奉仕として福祉の充実を図る為の研
鑽会を開催、② 介護施設や個人宅などの傾聴ボラン
ティア活動の実施、③ 傾聴ボランティア講座及び立
上げに関する協力、④ 県内の傾聴ボランティア組織
相互の研鑽会への参加・協力、⑤ その他の目的達成
に必要な事業の実施。

この様な壮大な計画を立て、目的をもって活動して
いるグループですが、この3年はコロナ禍の影響で、
訪問が中止になったり、日程が延び延びになってしま
いました。現在は、1カ所だけリモートで対話してい
るそうです。便利な世の中になりましたが、対面でのような訳にはいかず、時間も短いため
残念がっておられます。また、施設のお年寄りも大いに残念がっておられるそうです。

荒井さんは、シルバー大学校39期生として入学されました。在学中から学生自治会の役
員をやりながら在校生のために活動をやられました。またクラブ活動の方も、フォークダン
ス、トレッキング、社交ダンスと多岐にわたってやってこられました。もちろん傾聴のボラ
ンティアもありますから、どこに時間があるのかと思います。また、卒業後も同窓会の役員
として頑張っておられました。ほかに、ニュースポーツ研修委員長として、コロナで3年間
中止になっていた同窓会ニュースポーツ研修会を昨年6月に再開させました。80名の参
加者を集め、4種目のニュースポーツを競技方式で行い盛り上げました。当日は、栃木テレ
ビも取材に来て、ニュースポーツ研修会の意義をインタビューで話されました。おかげで今
年も昨年に続いて実施されました。SDOの会員数もこれから更に増やして、多くの方と活
動が出来たらと話されています。荒井さんのエネルギーがいろいろな活動に、頭が下が
ります。そして、今後のご活躍をさらに願っております。



③ 私の趣味は3M+1+スリーエムプラスワン、岡川 光佑さん

取材：駒田特派員



今回ご紹介するのは、今年9月で90歳を迎えられた、岡川光佑(おかがわ こうすけ)さん。

「栃木県マジシャンズクラブ連合」の代表理事を、今年の3月で引退されましたが「マジック1・2・3(ワン・ツー・スリー)」というサークルの一員として、引き続き意欲的に、活動を続けられています。「私はね『趣味は?』と訊かれたら・・・3M+1と答えるんですよ」

まるで、方程式のような答えに戸惑っていると、すぐさま種明かし。1番目のMは、Mountain hiking(マウンテンハイキング)。2番目のMは、Music(ミュージック)。3番目のMは、Magic(マジック)。そして、最後の+1の1は、Mathematics(マセマティックス=数学)。これが、趣味に関する数式の答えです。数学は、趣味とは言わないので+1(プラスワン)。

マウンテンハイキングは、白根山・那須岳・三斗小屋温泉など、県内でのハイキングを奥様やお子様、お孫様たちまでとも、共に楽しめました。

次に挙げた、ミュージック。大学でのクラブ活動を選ぶ際には、マジッククラブか箏曲部か、迷ったそうです。結果最後に選んだのは、友だちに誘われた箏曲部。誘ってくれた当の本人は、程なく辞めてしまったと笑いながら話してくれました。4年生の時、学生三曲連盟の当番校にあたり、少ない部員数のなか部長として演奏会を無事開催し、三味線の先生と共に、越後獅子を演奏するまでの腕前となりました。

マジックは、子どもの時に初めて見て以来、虜に。有り得ないことが、現実に起こる。「何故!？」を追究したくなるマジックに一目惚れしました。数学とマジックの共通点は、“物を考える力”が必要なこと。どちらも、出た結果に至った筋道を、解明しようとするのがとても大事。嗜好に見事にマッチした訳です。

マジック習得のため、本を取り寄せ、見よう見まねで練習を始めました。「本に書いてあることの半分も理解出来なかった」と当時を振り返ります。

先生に付いて学ぶことなく、ひたすら独習を貫いてきました。時に、クラスメートに披露したり、同窓会で演じてみたり。運送会社の社長職を、67歳で引退してからは「マジック1・2・3」に所属し、マジックに専念することが出来るようになりました。週1回の勉強会に精を出し、また、依頼があれば出向いてのボランティア活動も続けています。

さて、栃木県には、マジックを舞台上で演じる場がありませんでした。そこで「不思議さを舞台上でアピールしたい」という思いから、知人やマジッククラブの会長などに声を掛け、「栃木県マジシャンズクラブ連合」を7年前に立ち上げました。「マジックは、相手が驚いて楽しんでくれるもの。驚きの顔、そして拍手」とマジックの醍醐味を教えてくださいました。

「栃木県マジシャンズクラブ連合」では、毎年「栃木県マジシャンズ大会」を開催しています。今年は、第6回大会をとちぎ男女共同参画センター「パーティ」にて、9月10日に開催しました。舞台上での、生き生きとしたその姿を、来年も拝見したいものですね。

皆さんも是非、大会に足を運んで、マジックの魅力を感じとってみてください。

